



## 地域医療支援病院として承認されました

当院は平成29年9月22日付けで愛知県知事より「地域医療支援病院」として承認されました。承認に際し病診連携登録医の先生方には多大なご指導、ご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

### 地域医療支援病院承認のお礼

日頃より当院との医療連携に御指導、御支援を賜りまして誠にありがとうございます。医療連携に対する先生方の御指導のお陰で、この度、当院は愛知県より地域医療支援病院として承認を受けました。高水準の逆紹介率、紹介率の維持およびオープンベッドの運用に多大なご指導を賜り心より御礼申し上げます。どうか今後とも変わらぬご指導をお願い申し上げます。

平成28年6月に新病棟をオープンした後も病院機能の拡充整備を進めて参りましたが、その一環として平成29年4月に最新鋭CTを新規に2台導入いたしました。それぞれ80列と320列の超高速CTで極めて精度の高い画像を得ることができます。病診連携CT検査枠を増やして1週間以内にCT検査ができるようになっておりますので、是非ご利用いただければと存じます。また、7月には従来の3倍以上のスペースを確保し、救急処置にも余裕を持って対応可能な救急外来をオープンしました。さらに総合アレルギーセンターも本格的に稼働を始めました。総合アレルギーセンターは注目度も高く、病診連携により多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。一方、9月には皮膚科に2種類の最新鋭レーザー治療装置を導入して血管腫等への治療に対応する皮膚科レーザー外来も開始しました。さらに下肢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症や下肢静脈瘤等）を対象に循環器内科と血管外科が合同で診療を行い1日でABI・下肢エコー・造影CT・MRA等の必要な検査を実施するフットケア外来も始めております。

上記の診療機能を有効にご活用いただけるようインターネットによる診療予約システム、CT/MRI/胃カメラ/エコー等の検査予約システム、カルテ閲覧システムの拡充を今後も図り、地域医療支援病院として地域医療機関の先生方との診療連携がスムーズに進みますようシステム構築を進めて参る予定です。先生方には今後も当院との円滑な診療連携の発展のためにご指導、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



病院長  
井澤 英夫

### 地域医療支援病院の承認について

本病院は地域の患者さんのために地域医療機関の先生方との緊密な連携を積極的に推進し、近隣の先生方の期待に応えられる病院づくりに取り組んでいます。身近な地域で完結した医療が提供できるようにするためには、診療所や病院などの医療機関が相互に協力しそれぞれの役割を果たすことが必要です。一次医療を担う「かかりつけ医」を支援し、医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対する研修の実施、専門外来や入院、救急医療など地域医療の中核を担う体制を備えた病院が「地域医療支援病院」として各都道府県知事から承認を受けることができます。本病院は地域の医療機関の先生方のご指導をいただき、2017年9月、愛知県から地域医療支援病院を承認していただくことができました。地域の医師会等医療機関関係団体の代表の先生方、学識経験者の先生方で構成する委員会では毎回貴重なご指導をいただき、改めて御礼申し上げます。開放型病床をはじめ、引き続き地域の患者さんにより安心・安全な医療を提供できるよう努めていきたいと考えております。今後とも何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



副院長(医療連携担当)  
堀口 明彦

Topics

# 総合アレルギー科のご案内

下記アレルギー疾患の患者さんはもちろん、皮膚や呼吸器、目、鼻などの複数の部位に症状があり、どの診療科に受診すれば良いかお困りの患者さんがいらっしゃいましたら…

**当院「総合アレルギー科」(<http://www.fujita-hu.ac.jp/~allergol/>)へ  
ぜひご紹介ください**

**しっかりと問診を行い、受診が必要な診療科との多科連携を行い、  
適切な検査、治療が受けられるように診療を進めます。**

以下の疾患において専門性の高い診療を行っていますので、ぜひご紹介をいただければと思います。

- アトピー性皮膚炎 ●じんましん ●接触皮膚炎(かぶれ)
- 金属アレルギー(掌蹠膿疱症) ●アレルギー性鼻炎(スギ花粉・ダニ)(舌下免疫療法)
- 食物アレルギー(小麦、リンゴ、スイカ、モモ、バナナ、豆類・ピーナッツ、イカ、エビ、アニサキス等)
- 花粉—食物アレルギー症候群 ●食物依存性運動誘発性アナフィラキシー(小麦や果物)
- 薬疹 ●化粧品/酒さ様皮膚炎 ●好酸球性胃腸炎(食後の嘔吐、下痢など)



医療機関さまより、当院地域医療連携センターまで予約お申し込みください。

**TEL:052-323-5927・5918 FAX:052-323-5726**



総合アレルギー科 教授  
矢上 晶子

アレルギーに悩める全ての患者さんを受け止める医療を目指し、2017年1月1日、藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院に「総合アレルギー科」は新設されました。各科の先生方(呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科)と連携し、原因が特定できず症状に苦慮されている、もしくは診断はついていても症状が続き困っていらっしゃる、小児から成人～ご年配に至る幅広い年代の患者さんに対し、大学病院として、より専門的な検査や治療を行えるよう努めてまいります。

アレルギーの患者さんから「一度、ばんだね病院の総合アレルギー科を受診したい」、そして、地域の先生方より「ばんだね病院の総合アレルギー科への受診を患者さんに勧めたい」と思い、頼っていただけるような診療科になれるよう、「アレルギーに苦しむ、全ての患者さんのために」をモットーに医局員が一丸となって診療にあたります。

“アレルギーのような”、でもかまいませんので、様々な症状に悩んでおられる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ一度ご紹介をいただければと思います。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合アレルギー科 教授 矢上 晶子

## パッチテスト

突然発症したかぶれや慢性的な  
湿疹病変に悩まされている患者さんに

日用品・化粧品・衣類などによる接触皮膚炎、金属アレルギー、薬疹等の原因を調べる検査です。原因が明らかになると根本的な治療が期待できます。



## プリックテスト

食物アレルギーや  
薬疹の原因の特定が  
必要な患者さんに



特定の薬剤や食物の摂取後に起こる、口腔違和感や蕁麻疹、呼吸困難、アナフィラキシーショックなどの即時型アレルギー症状の原因を特定するために行う検査です。原因抗原が明らかになることで患者さんの生活の質が改善します。

## アトピー性皮膚炎 スキンケア指導

治療を受けていても  
湿疹や痒みが強い患者さんに



私共の診療科では、スキンケア治療に積極的に取り組んでいます。必要であれば入院をしていただき、時間をかけて指導を行い、患者さん自身がご自分を“セルフケア”できるよう支援いたします。

## 舌下免疫療法

スギ花粉やダニによる  
アレルギー性鼻炎の症状が辛い患者さんに

シーズンになると重篤な症状に悩まされているスギ花粉症の患者さんに対しては、スギ花粉抗原による舌下免疫療法(シダトレン® 鳥居薬品)を行います。ダニによるアレルギー性鼻炎の患者さんに対しては舌下免疫療法としてミティキュア® (鳥居薬品)もご紹介します。

## 慢性蕁麻疹に対する ヒト化抗ヒトIgEモノクローナル 抗体製剤による治療

コントロールがつかず痒みや症状が  
強い蕁麻疹の患者さんに

これまで気管支喘息だけが対象であったゾレア®(ヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体製剤)が慢性蕁麻疹にも使用できるようになりました。通常の治療では日常生活や学業・就業に影響がでている蕁麻疹の患者さんがいらっしゃいましたら一度ご紹介をしていただければと思います。



**入院の受け入れも可能です。検査や治療で入院が必要と判断した場合は入院をしていただき診療を進めさせていただきます。**

治療方針が決まり症状のコントロールがつかましたら、紹介元の先生方へ逆紹介をさせていただいております。症状が悪化された際は、再度ご依頼いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。





## レーザー外来が新設されました

平成29年9月より皮膚科にてレーザー外来が新設されました。  
お電話・FAX・WEBでのご予約を賜っております。  
お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせください。

皮膚科では、平成29年9月より皮膚科レーザー外来を開始いたしました。  
完全予約制とし毎週木曜日、午前9時～12時半の時間帯で治療を行っています。  
治療の前に詳しい説明を聞いていただき納得されてから治療を始めていただくことを心がけています。そのためまず皮膚科を受診していただき(木、土以外)、レーザー治療が適応と診断された患者さんを対象としています。

当科処置室に設置しているレーザーは3台です。メラニン色素性疾患治療用Qスイッチレーザー(The Ruby Z1)、皮膚良性血管病変治療用色素レーザー(VビームII)に加え、従来から形成外科が使用している炭酸ガスレーザーの3種類となります。

保険診療対象となるものは血管系(乳児血管腫、単純性血管腫、毛細血管拡張症)、メラニン系(太田母斑、異所性蒙古斑、扁平母斑、外傷性異物沈着症)です。美容皮膚科関連は自費診療となります(例:老人性色素斑など)。

特にあざの治療に関しては、(全身麻酔を必要としない)2歳までに治療が終了できるように開始することが望ましく、特に生後数か月以内の治療開始を勧めております。早い時期からご紹介いただけましたら幸いです。



メラニン色素性疾患治療用Qスイッチレーザー (The Ruby Z1)      皮膚良性血管病変治療用色素レーザー (VビームII)



皮膚科 准教授  
秋田 浩孝

## 地域医療連携副センター長より挨拶



地域医療支援病院に向けて、2年ほど前から病院を挙げて準備をして参りましたが、今年の9月に県から承認を頂きました。これも偏に先生方からの患者さんのご紹介があつてのことと感謝いたします。さて、病院一階にあります当センターには、医療連携室、医療福祉相談室と退院支援室の3部門の職員が常駐しております。当センターは先生方の窓口となりお役に立てるよう努めます。さらには、後方連携としての橋渡しが滞りなく行えるよう体制を強化します。それぞれの部門がバラバラではなく、地域医療連携センターのチームとして動き、地域包括ケアに貢献できるような体制を整えてまいりますので、これからも当院をよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携副センター長 若林 貴夫

地域医療連携センターは夕診時にもご利用頂けますよう平日19:00までお電話やFAXによる診療・検査の予約申込みを受付しております。また、WEB上で空き状況の確認と予約手続が完了する「インターネット予約システム」(24時間対応)も整備しております。利用を希望される場合は地域医療連携センターまでお問い合わせください。

地域医療連携センター TEL:052-323-5927・5918

【編集発行】  藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院 広報委員会(地域医療連携センター)

【発行年月日】 平成29年12月31日

〒454-8509 名古屋市中川区尾頭橋3-6-10

TEL:052-321-8171(代表)・052-323-5927・5918(地域医療連携センター直通)

FAX:052-323-5726(地域医療連携センター直通) <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

